



# インド株式 集中投資ファンド

追加型投信／海外／株式

当ファンドは、主として株式等の値動きのある証券等に投資しますので、ファンドの基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失が生じ、投資元本を割り込むことがあります。

お申込みの際は必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をよくご覧ください。

投資信託説明書(交付目論見書)のご提供・お申込みは

設定・運用は

## SBI証券

株式会社 SBI証券  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第44号  
加入協会: 日本証券業協会  
一般社団法人金融先物取引業協会  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会



## 損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント

損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第351号  
加入協会: 一般社団法人投資信託協会  
一般社団法人日本投資顧問業協会



## 1

インドの取引所に上場している株式等を実質的な主要投資対象とし、信託財産の成長を図ることを目指します。

●インドの株式の他に、DR（預託証券）やPノート（参加証券）等へも投資します。

- ・DR（預託証券） Depository Receiptの略称。  
ある国の株式会社の株式を海外で流通させるために、その会社の株式を海外の銀行等に預託し、その裏付けとして発行される証券をいいます。DRは、株式と同様に取引所等で取引されます。
- ・Pノート（参加証券） Participatory Noteの略称。  
銀行や証券会社がインド国外で発行する証券で、特定の銘柄の株価に連動します。Pノートは、株式と同様に取引所等で取引されます。

●ファンド・オブ・ファンズ方式で運用します。

- ・当ファンドは、「GAM スターファンドp.l.c - GAM スターインディア エクイティ 日本円シェアクラス」および「損保ジャパン日本債券マザーファンド」を主要投資対象とします。
- ・原則として、「GAM スターファンドp.l.c - GAM スターインディア エクイティ 日本円シェアクラス」への投資比率を高位に保ちます。

※当ファンドが主要投資対象とする投資信託証券の正式名称及び概要については投資信託説明書（交付目論見書）の「主要投資対象の投資信託証券の概要」をご覧ください。また、名称及びその運用会社の名称等は今後変更となる場合があります。

## 2

インドの取引所に上場している全銘柄の中から、厳選された銘柄へ集中投資を行います。ポートフォリオは、「優良成長」銘柄と「ディープバリュー」銘柄で構成されます。

「優良成長」 銘柄	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安定的で質の高いビジネスを展開しており、業界内で高い競争優位性を持っている銘柄。</li> <li>・ポートフォリオの安定的かつ持続的成長に寄与。</li> </ul>
「ディープバリュー」 銘柄	<ul style="list-style-type: none"> <li>・株価が企業の本質的価値に対して、大幅に割安となっている銘柄。</li> <li>・中長期的に割安感が解消される過程で、大きなリターンが期待できます。</li> </ul>

## 3

実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

## 4

原則、1、4、7、10月の各25日（休業日の場合は翌営業日）の決算時に、収益の分配を行います。

- 初回決算日：2016年1月25日
- 分配対象収益が少額の場合は、分配を行わないことがあります。

### インド株式投資に特化した会社による運用

「GAM スターファンドp.l.c - GAM スターインディア エクイティ 日本円シェアクラス」は投資顧問会社であるGAM インターナショナル マネジメント リミテッドが、副投資顧問会社であるニュー ホライズン ウェルス マネジメント プライベートリミテッドへ運用を委託します。実質的な運用会社はニュー ホライズン ウェルス マネジメント プライベートリミテッドとなります。

**投資顧問会社** GAM インターナショナル マネジメント リミテッド（GAMグループの運用会社）

- ・GAMホールディングスの一員。
- ・GAMホールディングス（スイス チューリッヒ）は、1983年創業の資産運用会社。
- ・グループ全体で拠点は世界10ヶ国。運用資産総額は、1,242億スイスフラン（約16兆円）（2015年6月末現在）

**副投資顧問会社** ニュー ホライズン ウェルス マネジメント プライベートリミテッド

- ・インド株運用に特化した、2007年創業の独立系資産運用会社。ボトムアップアプローチに基づく個別銘柄選定に強み。インド（ムンバイ）に拠点を置く。
- ・主な顧客は米国の著名な財団や年金基金。
- ・運用資産残高は、552百万米ドル（約675億円）（2015年6月末現在）

# 成長著しいインド

インドでは、先進国や新興国全体を上回る高い経済成長が続くと予想されています。この背景には、豊富な生産年齢人口と中間所得層の増加に伴う消費の拡大などが挙げられます。

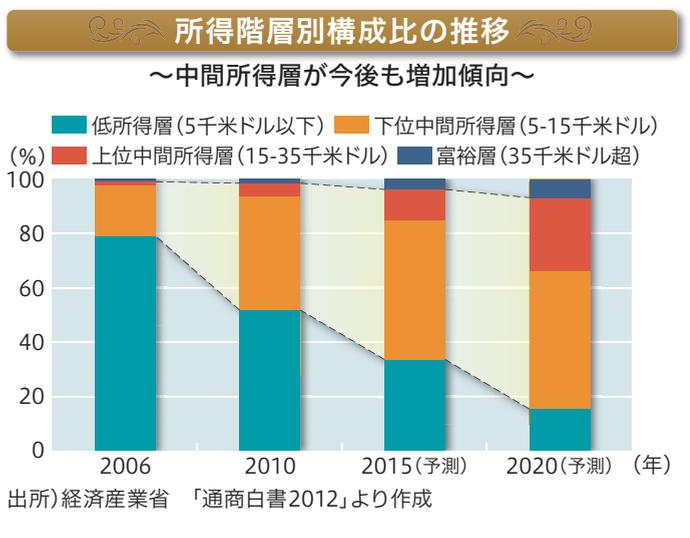
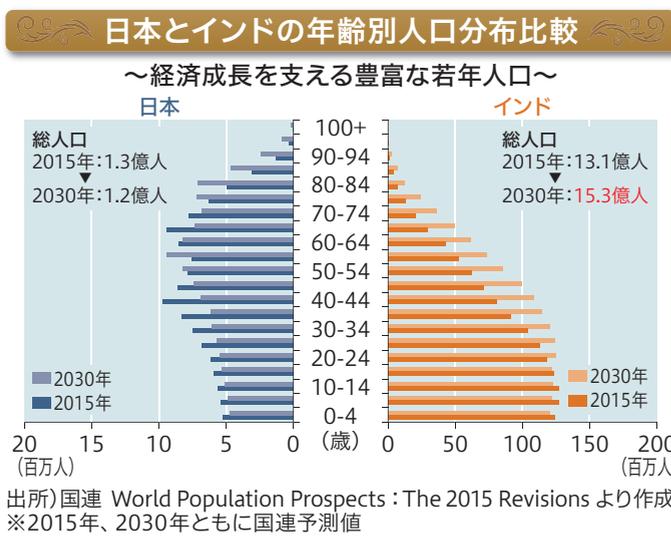
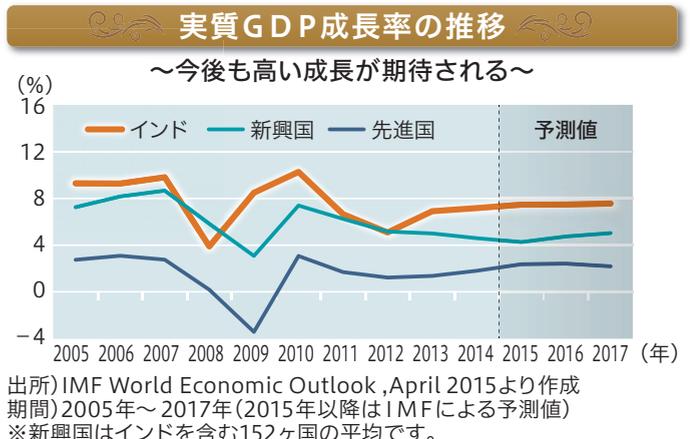
### インドの基礎データ



**国名** インド  
**面積** 328万7,469平方キロメートル (日本の約8.7倍)  
**人口** 12億1,057万人(2011年)  
**首都** ニューデリー  
**言語** 連邦公用語はヒンディー語、他に憲法で公認されている州の言語が21  
**通貨** ルピー  
**一人当たりGDP** 1,808米ドル(2015年予測値) (日本: 33,223米ドル)

**略史** 1947年 英国領より独立  
 1950年 インド憲法の制定  
 1952年 日インド国交樹立、第1回総選挙  
 2014年 インド人民党(BJP)政権が成立

出所)外務省HP、IMF World Economic Outlook, April 2015より作成



インドでは、2013年9月にラジャン氏がインド準備銀行総裁に、2014年5月にはモディ氏が首相に就任したことにより金融・経済政策改革への期待が高くなっています。これらを背景にインド株式と通貨ルピーの中長期的な成長が期待されます。



### ラジャン総裁の物価・通貨安定政策

- インフレ目標の導入による物価の安定 (2015年1月:8%、2016年1月:6%、中長期:4%±2%)
- 消費者物価指数を物価指標として採用 等

---

### モディ政権への改革期待 (モディノミクス)

- 「メイク・イン・インディア」計画 (海外企業の積極的な誘致)
- 燃料補助金の削減 ●インフラ投資の拡大 等

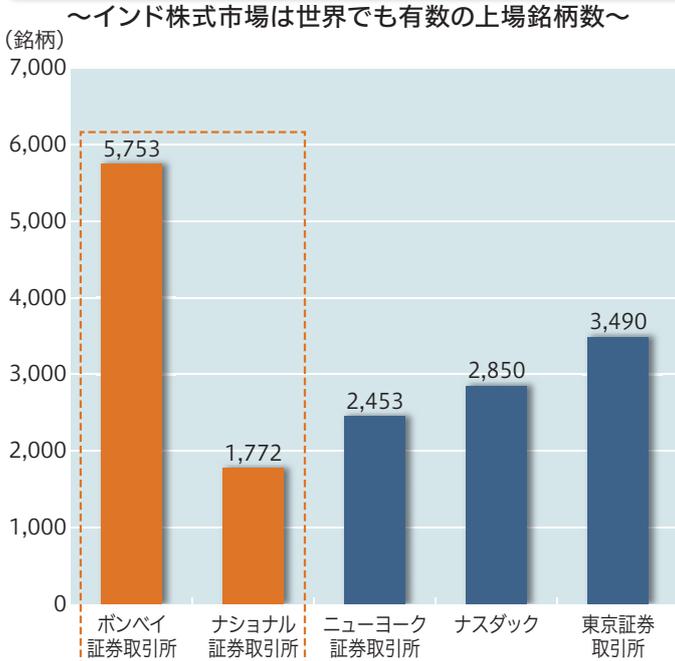
## 更なる経済成長への期待

上記は過去のデータであり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

# インド株式市場における銘柄選択の有効性

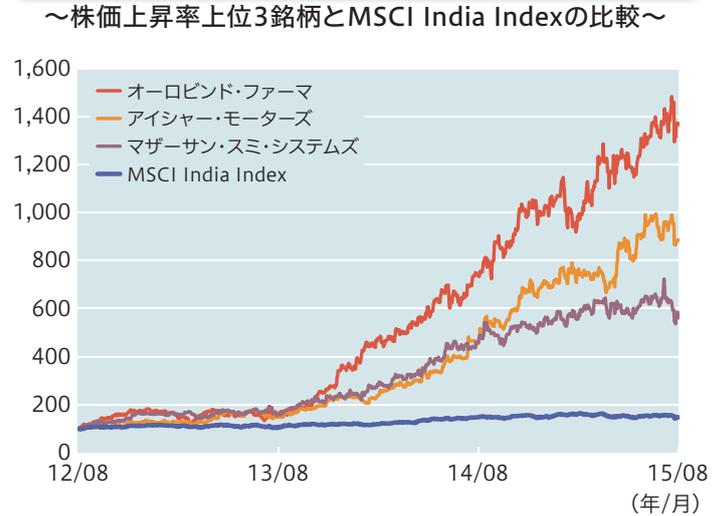
インド株式市場の上場銘柄数は、世界有数の多さとなっています。そのため、企業の本質的価値が株価に十分に反映されていない企業が多数存在していると考えられ、その中から厳選した個別の銘柄選択を行うことにより、より高い投資収益の獲得を目指します。

## 主要市場の上場銘柄数



出所) World Federation of Exchangeより作成  
2015年8月31日時点

## 株価上昇率の高い銘柄の例



出所) Bloombergより作成  
期間) 2012年8月31日～2015年8月31日(2012年8月31日を100として指数化)

上記個別銘柄はMSCI India Indexにおける対象期間中の株価上昇率の上位3銘柄を抽出したものです。そのため、必ずしも実際に当ファンドに組入れられる投資銘柄とは限りません。運用のイメージをつかんで頂くためのもので将来の運用内容や成果を示唆あるいは保証するものではありませんのでご注意ください。また、記載銘柄の推奨および個別銘柄の売買の推奨を行うものではありません。

# 当ファンドの銘柄選定プロセス

インド株式市場の全上場銘柄(約6,000銘柄)<sup>※</sup>

※重複上場銘柄を除く

STEP ①

スクリーニング(流動性・投資の適合性等)

約1,500銘柄を選択

STEP ②

100%ボトムアップアプローチにて銘柄を選別

投資候補 45～50銘柄

STEP ③

包括的な定量・定性分析を実施  
3年超の長期的な視点で銘柄を選択

約20～30銘柄に厳選投資

## 銘柄選定プロセスのポイント

STEP ①

・業種や投資テーマを絞らずインド株式市場全上場銘柄から投資対象を抽出

STEP ②

・年間200～250社の企業訪問を実施し、過去より蓄積された約2,000件に及ぶ企業データを活用  
・事業の質、投資機会の規模を判断  
・投資候補銘柄を「優良成長」銘柄、「ディープバリュー」銘柄に分類

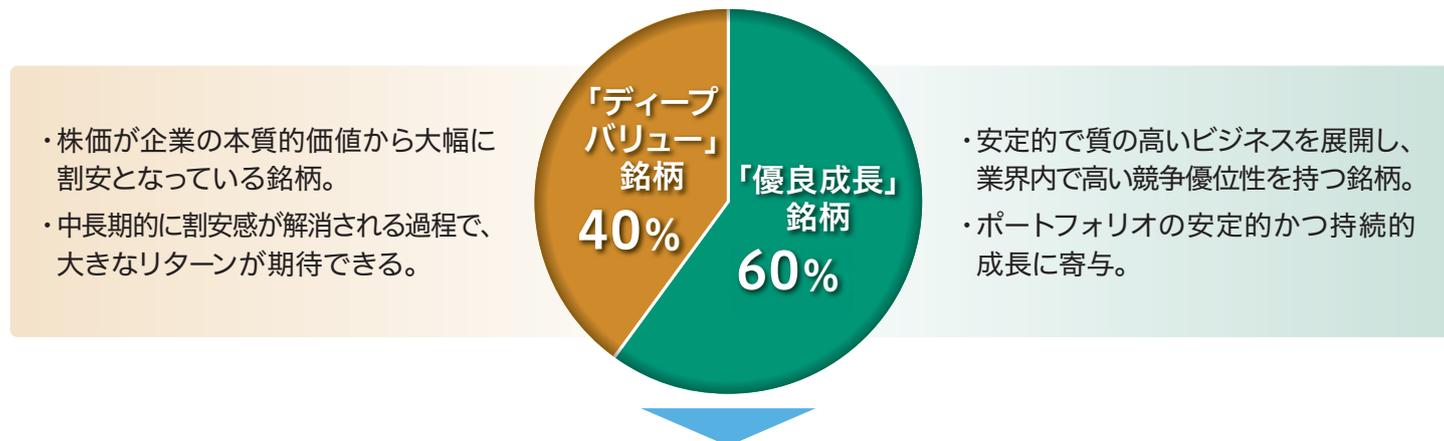
STEP ③

・財務モデル・収益モデルを作成し、複数年の利益見通しから本質的価値を決定(定量分析)  
・投資可能な銘柄が複数の観点(事業の割安度、フリーキャッシュフローの創出力等)から検証(定性分析)  
・「優良成長」銘柄と、「ディープバリュー」銘柄の組入比率を概ね60:40としてポートフォリオを構築

上記は過去のデータであり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

# 「優良成長」銘柄と「ディープバリュー」銘柄

当ファンドの投資対象となっている株式は「優良成長」銘柄と「ディープバリュー」銘柄のいずれかに分類されます。「優良成長」銘柄と「ディープバリュー」銘柄は概ね60%、40%の割合で組み入れられます。



「優良成長」銘柄でポートフォリオの安定的な成長を実現しつつ、「ディープバリュー」銘柄でより高いリターンを狙うポートフォリオを構築。

## モデルポートフォリオの概況 (2015年8月31日時点)

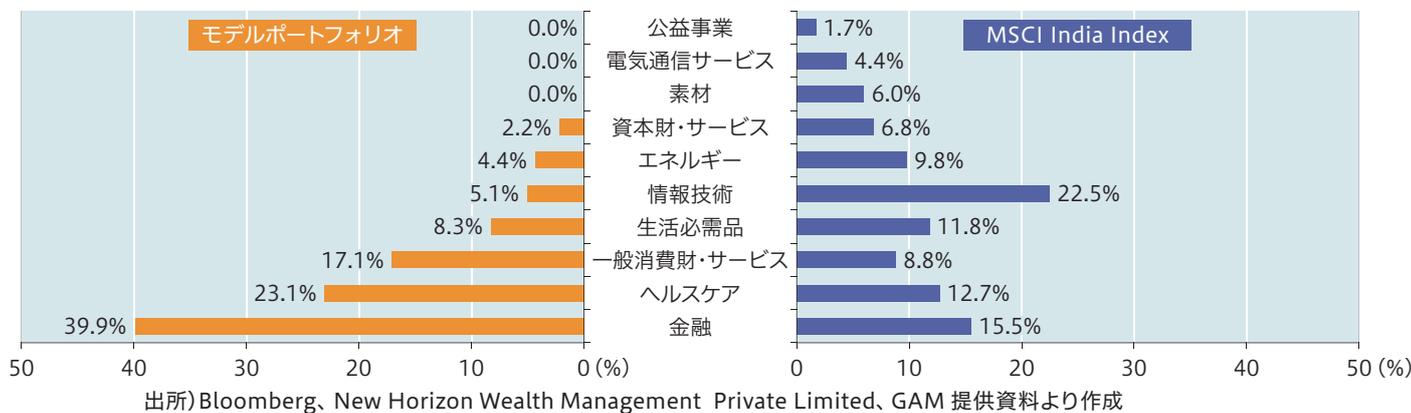
### モデルポートフォリオ実質組入れ上位10銘柄

～徹底した企業分析を通じて実質組入銘柄を厳選～

企業名	企業紹介
サン・ファーマシューティカルズ	インドの最大手製薬会社。インド国外での売上げが75%を占める。
グレンマーク・ファーマシューティカルズ	80ヶ国以上に展開し2008年には「世界の最優秀中小製薬会社」を受賞した製薬会社。
バジャジ・ファイナンス	二輪車向けローンや耐久消費財向けローンでトップシェアを有するノンバンク。
タタ・モーターズ	インド最大の自動車会社。傘下にジャガー・ランドローバーなどの高級ブランドも有する。
アクシス銀行	インドの大手銀行。モバイルバンキングに力を入れ、インド初の自分用にカスタムできるアプリを提供。
PTCインド・フィナンシャル・サービス	エネルギー関連の川上から川下までの様々なインフラ事業に金融サービスを提供。
KPIITテクノロジーズ	自動車、医療機器などの製造業やエネルギー関連企業にソリューションを提供するソフトウェア会社。
ユナイテッド・スピリッツ	インド最大手のアルコール飲料メーカー。140以上のブランドを有する。
コックス&キングス	1758年から続く世界最古の旅行会社。日本でも1990年から事業を開始。
コタック・マヒンドラ銀行	インドの大手銀行。インドにおいてノンバンクが銀行免許を取得した初めての金融機関。

### モデルポートフォリオとMSCI India Indexの業種別構成比率の比較

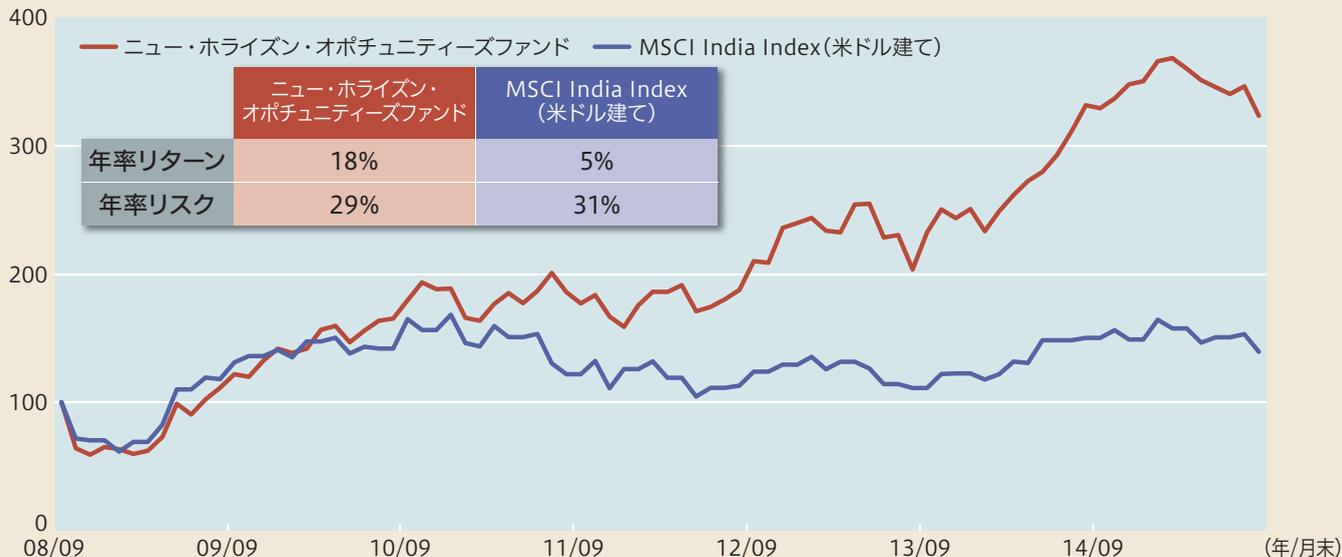
～株式市場の業種構成とは異なる、特徴あるポートフォリオ～



モデルポートフォリオは、運用開始前の仮のポートフォリオになります。必ずしも実際に当ファンドに組み入れられる投資銘柄とは限りません。運用のイメージをつかんで頂くためのもので将来の運用内容や成果を示唆あるいは保証するものではありませんのでご注意ください。また、記載銘柄の推奨および個別銘柄の売買の推奨を行うものではありません。

## ご参考 類似ファンドの運用実績と過去の投資事例

### ニュー・ホライズン・オポチュニティーズファンドの運用実績※(米ドル建て)



出所) Bloomberg、New Horizon Wealth Management Private Limited、GAM 提供資料より作成

期間) 2008年9月30日～2015年8月31日

※上記グラフ・データは類似ファンド(ニュー・ホライズン・オポチュニティーズファンド)の運用成果であり、当ファンドの投資成果等を保証するものではありません。また、上記は過去のデータであり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。2008年9月末を100として指数化、米ドルベース。

#### 「優良成長」銘柄

#### バジャジ・ファイナンス (Bajaj Finance)

二輪車向けローンや耐久消費財向けローンでトップシェアを有するノンバンク。小口融資のため高コスト構造であるが、巨額のテクノロジー投資を行いローン審査の短期化を実現した効率経営が競争優位の源泉。同業他社と比較し高資本効率。2012年10月に購入。



出所) Bloomberg、New Horizon Wealth Management Private Limited、GAM 提供資料より作成  
期間) 2010年1月1日～2015年8月31日

#### 「ディープバリュー」銘柄

#### バルクリシュナ・インダストリーズ (Balkrishna Industries)

インドの特殊車両向けタイヤメーカー。顧客ニーズに応える少量多品種生産が競合他社との大きな差別化であり、競争優位の源泉。競合他社のタイヤメーカーと比較し、高利益率。2009年にPERが1.5倍のときに購入。



出所) Bloomberg、New Horizon Wealth Management Private Limited、GAM 提供資料より作成  
期間) 2009年1月1日～2015年8月31日

上記は投資対象ファンドの運用に関する説明の一部であり、全てを網羅したものではありません。また、上記は過去の株式への投資事例であり、当ファンドにおいて、当該銘柄に投資するとは限りません、また、当該銘柄を推奨するものではありません。

上記は過去のデータであり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

## 当ファンドの主なリスクと留意点

### ●基準価額の変動要因

当ファンドの基準価額は、組入れられる有価証券等の値動き等による影響を受けますが、これらの運用による損益はすべて投資者の皆様へ帰属いたします。したがって、投資者の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。また、投資信託は預貯金とは異なります。

当ファンドの主なリスクは以下のとおりです。

※基準価額の変動要因は、以下に限定されるものではありません。

価格変動リスク	株式等*の価格は、国内外の政治・経済情勢、市況等の影響を受けて変動します。組入れている株式等の価格の下落は、ファンドの基準価額が下落する要因となります。 ※DR(預託証書)やPノート(参加証書)等を含みます。以下同じ。
信用リスク	株式等の価格は、発行体*の財務状態、経営、業績等の悪化及びそれらに関する外部評価の悪化等により下落することがあります。組入れている株式等の価格の下落は、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、発行体の倒産や債務不履行等の場合は、株式等の価値がなくなることもあり、ファンドの基準価額が大きく下落する場合があります。 ※Pノートを発行する銀行等を含みます。以下同じ。
流動性リスク	国内外の政治・経済情勢の急変、天災地変、発行体の財務状態の悪化等により、有価証券等の取引量が減少することがあります。この場合、ファンドにとって最適な時期や価格で、有価証券等を売買できないことがあり、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、取引量の著しい減少や取引停止の場合には、有価証券等の売買ができなかったり、想定外に不利な価格での売買となり、ファンドの基準価額が大きく下落する場合があります。
為替変動リスク	外貨建資産の価格は、当該外貨と日本円との間の為替レートの変動の影響を受けて変動します。為替レートは、各国の政治・経済情勢、外国為替市場の需給、金利変動その他の要因により、短期間に大幅に変動することがあります。当該外貨の為替レートが、円高になった場合は、ファンドの基準価額が下落する要因となります。
カントリーリスク	一般的に、主要先進国以外の国では、主要先進国に比べて、経済が脆弱である可能性があり、国内外の政治・経済情勢、取引制度、税制の変化等の影響を受けやすく、また市場規模や取引量が小さいこと等から有価証券等の価格がより大きく変動することがあり、ファンドの基準価額が大きく下落することがあります。

### ●その他の留意点

- ・クーリングオフ制度(金融商品取引法第37条の6)の適用はありません。
- ・収益分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、収益分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。収益分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。投資者のファンドの購入価額によっては、収益分配金の一部又は全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、収益分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。

## ファンドの委託会社およびその他の関係法人の概況

委託会社	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者(登録番号: 関東財務局長(金商)第351号)であり、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会に加入しています。信託財産の運用指図等を行います。 電話: 03-5290-3519(受付時間: 営業日の午前9時から午後5時) ホームページ・アドレス: <a href="http://www.sjnk-am.co.jp/">http://www.sjnk-am.co.jp/</a>
受託会社	みずほ信託銀行株式会社(再信託受託会社: 資産管理サービス信託銀行株式会社) 信託財産の保管・管理等を行います。なお、信託事務の一部につき資産管理サービス信託銀行株式会社に委託することができます。
販売会社	受益権の募集の取扱、販売、一部解約の実行の請求の受付、収益分配金の再投資ならびに収益分配金、償還金および一部解約金の支払等を行います。投資信託説明書(交付目論見書)の提供は、販売会社において行います。

※MSCI India Index(MSCIインディア・インデックス)は、MSCIインク(以下「MSCI」といいます。)が開発した指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCIに帰属します。また、MSCIは同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

当資料は損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント株式会社(以下、弊社)により作成された販売用資料であり、法令に基づく開示書類ではありません。投資信託は金融機関の預金と異なりリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって、元本、分配金の保証はありません。信託財産に生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。当資料は弊社が信頼できると判断した各種情報に基づいて作成されておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。当資料に記載された意見等は予告なしに変更する場合があります。また、将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更される場合があります。投資信託の設定・運用は委託会社が行います。お申込みの際には、投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめまたは同時にお渡ししますので、詳細をご確認の上、お客さま自身でご判断ください。なお、お客さまへの投資信託説明書(交付目論見書)の提供は、販売会社において行います。

# ●お申込みメモ

くわしくは、投資信託説明書(交付目論見書)にて必ずご確認ください。

購入の申込期間	当初申込期間 平成27年11月2日から平成27年11月26日まで 継続申込期間 平成27年11月27日から平成29年1月24日まで ※継続申込期間は上記期間満了前に有価証券届出書を提出することにより更新されます。
購入単位	販売会社が定める単位 ※詳細につきましては、販売会社までお問い合わせください。
購入価額	当初申込期間 1口あたり1円 継続申込期間 購入申込受付日の翌営業日の基準価額
換金単位	販売会社が定める単位 ※詳細につきましては、販売会社までお問い合わせください。
換金価額	換金請求受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を控除した額
換金代金	換金請求受付日から起算して、原則として8営業日目からお支払いします。 換金の申込金額が多額な場合、主要投資対象とする投資信託証券の解約および換金の停止ならびに基準価額算出の中止、取引所における取引の停止等※その他やむを得ない事情により、有価証券の売却(主要投資対象とする投資信託証券の解約または換金を含みます。)や売却代金の入金が遅延したとき等は、換金代金の支払いを延期する場合があります。 ※外国為替取引の停止、決済機能の停止、取引市場における流動性が極端に低下した場合、取引市場の混乱、自然災害、テロ、大規模停電、システム障害等により基準価額の算出が困難となった場合、投資対象国等における非常事態(金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、税制の変更、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争等)による市場の閉鎖または流動性の極端な低下もしくは資金決済に関する障害等をいいます。以下同じ。
申込不可日	・ダブリン、ニューヨーク、ロンドン、ムンバイの銀行の休業日 ・ボンベイ証券取引所、ナショナル証券取引所の休業日
申込締切時間	原則として午後3時まで(販売会社により異なる場合がありますので、詳細につきましては、販売会社までお問い合わせください。)
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金請求を制限する場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	委託会社は、購入・換金の申込金額が多額であると判断した場合、主要投資対象とする投資信託証券の申込み・解約及び換金の停止ならびに基準価額算出の中止、取引所における取引の停止等その他やむを得ない事情があると判断したときは、購入・換金の受付を中止すること、及び既に受付けた当該申込みの受付を取り消すことができるものとします。
信託期間	平成33年1月25日まで(設定日 平成27年11月27日) ※委託会社は、信託約款の規定に基づき、信託期間を延長することができます。
繰上償還	主要投資対象とする投資信託証券が存続しないこととなった場合、受益権の残存口数が10億口を下回るることとなった場合、繰上償還することが受益者のため有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、繰上償還させることがあります。
決算日	原則、1月、4月、7月、10月の各25日(休業日の場合は翌営業日) ※初回決算日は平成28年1月25日です。
収益分配	毎決算時(年4回)、収益分配方針に基づいて収益の分配を行います。 ※分配金を受取る一般コースと、分配金を再投資する自動けいぞく投資コースがあります。販売会社によっては、どちらか一方のみのお取扱いとなる場合があります。各コースのお取扱いにつきましては、販売会社までお問い合わせください。 ※分配対象収益が少額の場合は分配を行わないことがあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。配当控除、益金不算入制度の適用はありません。

その他の項目につきましては、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

# ●お客さまにご負担いただく手数料等について

購入時手数料	購入価額に <b>3.78%(税抜3.5%)</b> を上限として販売会社が定めた手数料率を乗じた額です。 ※詳細につきましては、販売会社までお問い合わせください。
信託財産留保額	換金請求受付日の翌営業日の基準価額に <b>0.3%</b> を乗じた額です。
運用管理費用(信託報酬)	ファンドの日々の純資産総額に対して <b>年率1.2204%(税抜1.13%)</b> を乗じた額とし、毎計算期末または信託終了のときに、ファンドから支払われます。
投資対象とする投資信託証券の信託報酬等	<p>&lt;基本報酬&gt; 投資信託証券「GAM スターファンドp.l.c - GAM スターインディア エクイティ 日本円シェアクラス」の日々の純資産総額に対して<b>年率1.25%~1.45%</b></p> <p>&lt;成功報酬&gt; 基本報酬に加えて以下の①、②がともにプラスの場合、いずれか小さい方の10%相当が成功報酬として投資信託証券から支払われます。当該成功報酬は日々計算し、基準価額に反映され、決算期毎に確定します。期をまたいで繰越や調整は行われません。</p> <p>①ハイ・ウォーター・マークを基準に計算した投資信託証券の収益額 ・ハイ・ウォーター・マークとは、投資信託証券の過去の決算日における成功報酬控除後の基準価額(支払い済収益分配金を含みます。)の最高値をいいます。なお、初回決算日までのハイ・ウォーター・マークは、設定日の基準価額とします。</p> <p>②投資信託証券の収益率が、MSCIインディア・インデックスの収益率を上回ったことによる超過収益額 ※上記のほか、ファンドの設立・開示に関する費用等(監査費用、弁護士費用等)がかかります。</p>
実質的な運用管理費用(信託報酬)	<p>ファンドの純資産総額に対して<b>概ね2.4704%~2.6704%*(税込・年率)程度</b>となります。</p> <p>※当ファンドの運用管理費用(信託報酬)年率1.2204%(税抜1.13%)に、投資対象とする投資信託証券の信託報酬等(年率1.25%~1.45%)を加算しております。投資信託証券の組入状況等によって、実質的に負担する信託報酬率は変動します。</p> <p>上記に加えて、<b>成功報酬</b>がかかる場合があります。なお、当ファンドを購入/売却するタイミングによっては、<b>当ファンドの基準価額が購入時の基準価額を下回っている(投資損失が発生している)場合でも、投資対象とする投資信託証券において成功報酬が支払われることがあります。</b>代表例は以下の通りです。</p> <p>イ、当ファンドの基準価額が上昇した期間の成功報酬が、投資対象とする投資信託証券の決算時点で確定した後、翌期以降に基準価額が低下(この期間は成功報酬は支払われません。)し、通算すると損失となっている場合。</p> <p>ロ、当ファンドの基準価額が購入時の基準価額を下回っている(投資損失が発生している)ものの、投資対象とする投資信託証券の収益率がMSCIインディア・インデックスの収益率を上回っており、インデックス対比で相対的に小さな損失に留まっている場合。</p>
その他の費用・手数料	<p>以下の費用・手数料等が、ファンドから支払われます。</p> <p>●監査費用 ファンドの日々の純資産総額に定率(年0.00216%(税抜0.0020%))を乗じた額とし、実際の費用額(年間27万円(税抜25万円))を上限とします。なお、上限額は変動する可能性があります。</p> <p>●その他の費用※ 売買委託手数料、外国における資産の保管等に要する費用、信託財産に関する租税等 ※「その他の費用」については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。</p>

※当該手数料等の合計額については、投資者の皆様がファンドを保有される期間、売買金額等に応じて異なりますので、表示することができません。